

周産期の医療システムに関する研究

分担研究者：多田 裕

研究協力者：池ノ上克

リサーチクエスチョン

- 1) 各県の周産期医療体制の評価
- 2) 周産期医療情報の内容と収集方法のあり方

宮崎県における現状および整備状況について以下にまとめた。

【各県の周産期医療体制の評価】

1. 調査結果

宮崎県において狭義のNICUのある施設は、宮崎医科大学附属病院、宮崎県立宮崎病院、宮崎市郡医師会病院、国立都城病院の4施設である。これらの施設において産科医療の現状を再検討した。

- (1) 産科医療の現状に前回調査時と大きな変化はない。
- (2) 宮崎市郡医師会病院は、外来は行っておらず、全患者が地域の開業医からの紹介患者であるという病院の性格上、母体搬送数が著明に多い。この中には、分娩遷延等の緊急性をさほど要求されない患者や単に帝王切開を行う目的だけの患者も含まれている。
- (3) 宮崎県立宮崎病院、国立都城病院は、地域の中核病院であるが、医師は夜間は自宅待機である。

2. 周産期医療施設の評価

宮崎医科大学附属病院、宮崎県立宮崎病院、宮崎市郡医師会病院、国立都城病院の4施設に関して評価表を用い評価を行った。

(1) 評価点数

宮崎医科大学 47点、宮崎県立宮崎病院 39点、国立都城病院 34点、宮崎市郡医師会病院 28点であった。ちなみにNICUを有しない病院の点数は、宮崎県立日南病院 14点、小林市立市民病院 8点であった。

(2) 評価方法に関して

- 実績評価と要因評価は別々に行った方がより問題点が鮮明になる。
- 大学病院の産科医師の評価は過大評価の可能性がある。
- 実績調査表の項目をもう少し評価項目に加えた方がよいのではないか。

(例えば検査、麻酔医の体制等)

【整備進行状況】

宮崎県では総合周産期医療センターに対する具体的な動きは現在の所ない。しかし、県北の県立延岡病院および県南の県立日南病院では、病院の改築に伴いそれぞれ5床のNICUが設けられる予定である。

【大学の整備状況と教育の現状】

宮崎医科大学では、平成8年に周産母子センターが開設された。平成10年4月には施設の改築が終了する予定である。ここを基盤に産科医、新生児科医の教育を行っていく。

↓ **検索用テキスト** OCR(光学的文字認識)ソフト使用 ↓
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります

周産期の医療システムに関する研究